



からだ なか けつえき なが
体の中を、血液はどのように流れているの

からだ なか けつえき なが
体の中の二つの血液の流れ

わたしたちのからだの中を流れている血(血液)は、心臓から出発し、体じゅうを回って、また心臓へ帰ってきます。行きの血管が動脈で、帰りの血管が静脈です。

どうみやく じょうみやく
動脈と静脈のちがいは

心臓から出発した、行きの血管(動脈)を流れている血液は、体に必要な栄養や酸素を体のすみずみにまで運びます。このときの血液は、酸素をたくさんふくみ、明るい赤い色をしています。

そして、全身に栄養や酸素をとどけた、帰りの血管(静脈)を流れている血液は、体にいらなくなったものや二酸化炭素を運んでおり、黒っぽい暗い赤い色をしています。

動脈と静脈のうち、動脈は体のずっと内側にあるため、ほとんど見えません。静脈は皮ふのすぐ下を通っており、青く見えています。ですから、指を切ったりして出てくる血は、ほとんどが静脈の中を流れている血で、黒っぽく暗い赤い色をしているのです。

また、血が衣服などについて黒っぽくなるのは、血液が空気にふれて黒っぽく変化したり、血液の水分が蒸発して、色がこくなるため、黒っぽく見えるのです。

(監修・保志 宏)

血液は体じゅうを流れている

